

■ご挨拶

Wind Vision 実現に向けて —新世代のJWPAへ—

日本風力発電協会 理事 **三保谷 明**
イオスエンジニアリング&サービス株式会社 顧問



はじめに

この度、弊社内の異動に伴い、坂東理事の後任として理事を務めさせて頂くこととなりましたイオスエンジニアリング&サービス(株)の三保谷です。一昨年7月まではJPower/電源開発(株)を代表してJWPA 監事、理事を務めさせて頂きましたが、改めての理事拝命に心機一転、風力発電の導入拡大、風力発電業界の発展に向け力を尽くす所存ですので、何卒よろしくお願ひ致します。

依然として『不都合な現実』が…

前回、平成25年度の監事就任挨拶にも同じタイトルを掲げさせて頂きましたが、平成24年7月のFIT制度導入以降、新たな風力発電の導入が僅か60万kWに留まるという『不都合な現実』を突きつけられ、世界最高の価格水準を設定するFIT制度を導入しながらも導入拡大が進まないこの状況は、海外からは実に『理解し難い現実』として受け取られています。

この風力導入の停滞は、系統連系制約、農地・森林・自然公園等における土地利用・立地規制、改正アセス法によるリードタイムの長期化といった従前からの問題が、若干の前進はあるものの依然として抜本的には解決されていないことが主要因ですが、特に太陽光発電の急速かつ大規模な導入による送電線容量の(見かけ上の)不足と電力系統の広域的運用に向けた検討の遅れが大きく影響しています。この現実、昨年度政府が策定した「長期エネルギー需給見通し」における風力発電の2030年度導入見通しが、僅か1,000万kWに留まるとされたことにも現れ、本年5月末には東北電力より「北部東北3県の空き容量なし」という衝撃的な発表が行われたことは記憶に新しいところです。

またここ数年頻発した風力発電機の事故は、幸いにも人身事故、公衆災害には至っていないものの、電気事業法改正により風力発電事業者も第一種電気事業者のライセンスを得る一方、電気設備として水力、火力等の既存電源と同様に確実な保安措置が求められています。

真に信頼される電源を目指して

こうした『不都合な現実』を克服し、更には近い将来には廃止されるFIT制度後の事業環境においても風力発電の導入を継続・加速させるための方策として、本年2月「JWPA Wind Vision Report～真に信頼される電源を目指して～」が公表されました。このWind Visionにおいては、喫緊の課題である系統連系問題に対する独自の提案ばかりでなく、グリッドパリティを凌ぐ発電コスト低減の実現と安全かつ信頼性の高い発電設備・システムとするための具体的な対応策を提示しています。

JWPAが、風力発電業界を代表する団体を目指し再出発して以来6年、300社近い企業による業界団体に成長してきましたが、このWind Visionは、政府や関係機関等に要望・要求するだけでなく「真に信頼される電源を目指して」徹底的なコストダウンやマネジメント・スキルの向上等、厳しい自助努力の方向を示す画期的な提言であり、このWind Visionをたたき台とした議論やより具体的な実現方策について、会員各位にも活発な議論を期待しています。

新世代のJWPAへ—おわりに

このWind Visionの策定が、会員企業から募った若手メンバーを中心としたTFの白熱した議論、作業により進められ大きな成果を得ることができたことも大変意義深いものと考えています。これまでJWPAでは部会・WGにより活動してきましたが、Wind Vision実現に向けた内外の課題には、緊急かつ深掘りした対応が求められており、各課題に応じた柔軟な組織作り、若手メンバーや専門家による密度の濃い活動が必須となります。既に洋上風力や人材育成等の課題に関して組織横断的な組織による活動が開始されており、これが新世代のJWPAへの嚆矢となることを期待しています。

『不都合な現実』がWind Vision実現の好機となるよう頑張りましょう。会員の皆様からの積極的なご意見、ご提案を大いに期待しております。